

---

# 夜に

九零

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
夜に

【コード】  
N3015G

【作者名】  
九零

【あらすじ】  
ある夜の出来事、部屋の中には一人だけ。

やっと男は眠りについたようだ。名前を呟いてみるが反応はない。

時計に目をやる。ぶれることがない針の動き。体が震えてきた。

ソファに横たわる男の顔をしばらく眺める。鼻から深く呼吸をしている音、時計の針の音。

今は何時だろう。時計を見たが、時間を確認していないことに気がつく。

もうこんな時間が。早くしなければ。

鞆からロープを引っ張り出す。持つ手が小刻みに動く。神経の接続が悪くなったようだ。

男の前に座りなおす。もう一度男の顔の仔細を観察する。

憎い。男の家に来るまでその感情しかなかったはずだ。しかし、今その憎悪が拡散していくのを感じている。いや、消えてしまった。

そんなはずはない。そう自分を奮い起こしてみる。今やらなければ、どうせまた男に憎悪しか抱けなくなるはずだ。

窓の外は街灯が夜を深めている。

男との過去を思い出す。数少ない心を許せた友人の一人であることを確認する。あんなことがなければ。

震える手でロープを男の首に巻こうとす。憎悪はなくなってしまったが、予防のため、ここまで来てしまったため。

首に手が触れた。男は心地良く寝ている。首は温かい。汗をかいている。

ふと、拍子抜けのような気分になる。時計の音が耳の中でリズムを刻む。すこし頬が緩んだ。

また今度。

震えが止まった。ロープを鞆に入れる。わざわざ、この言葉が頭をまわる。

汗でシャツが湿っている。体を洗いたくなる。立ち上がり、風呂場へ向かう。

なにか角ばったものを踏み、驚き、大きな音をたてて倒れる。部屋の中は電気がついていない。

んう、何？

悪い、起こした？

いや、いいけど。今何時？んっ、お前、まだ起きてんの？寝ないの？

お前寝るの早いわ。ヒマ。お前がそれでいいならまた眠ればいっしょ。

おどけて言ってみる。男は少し笑って目を閉じた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3015g/>

---

夜に

2011年1月26日01時54分発行